2026 年度 ピアノ調律職種技能検定 学科試験問題 1級

真偽問題

正しいものは①、正しくないものは②にマークしなさい。①、②以外を塗りつぶすと誤答になります。

問(1) 「嬰ニ」「D＃」「Es」は、鍵盤上では同じ音である。

問(2) ト長調をイ長調に移調すると、調号のシャープが1つ増える。

問(3) バロック音楽の代表的な作曲家では、J.ハイドンや W.A.モーツァルトがあげられる。

問(4) ベートーヴェンのピアノソナタ全32曲は、すべての長調・短調で作曲されている。

問(5) 楽音の波形の規則性は、それに含まれる倍音構成による。

問(6) チェンバロ演奏で8フィートとは、実音による演奏を意味し、その名称の由来は弦の長さである。

問(7) アクションのスプリング類は、真鍮製である。

問(8) チューニングピンには、普通のネジと異なる「6条ネジ」が切られている。

問(9) アリ組みやホゾ組みは、支柱組みする時の方法である。

問(10) ソステヌートペダル使用時は、スタッカートの演奏ができない。

問(11) 37A を打鍵して、440Hz の音叉に対し秒間1回の唸りがあるとき、37A＝221Hz になっている。

問(12) 平均律では、ある音の振動数に半音係数を 5 回掛けると 4 度上の音の振動数になる。

問(13) 大型のピアノほど、調律カーブは平坦になる傾向がある。

問(14) 割振りの 4 度を調律するときは、下の音の第 3 倍音と上の音の第 4 倍音の差を確認して行う。

問(15) アップライトピアノの打弦距離（ハンマーストローク）は、構造上、調整できない。

問(16) 整調を行う際は、工程順に従って調整を進めるが、大きな調整差のある工程は、通常の工程順から切り離し優先して調整を行う場合がある。

問(17) 鍵盤ならしが基準より高い場合、すべり金具（ベッディングスクリュー）の張りすぎが考えられる。

問(18) グランドピアノのシフトペダル調整不備の場合、音質・音色に影響する。

問(19) ピッカーの針の太さは、JIS 規格によれば 7 番より 9 番の方が細い。

問(20) チューニングピンのトルクが緩くなる要因として、過度の乾燥が挙げられる。

問(21) 鍵盤のバランスホールが前後ガタの場合、バランスホールに木工用ボンドを埋め込めばよい。

問(22) ダンパーフェルトの貼替えを行った際は、ワイヤー調整の確認と共にフェルトの調整を実施する。

問(23) 接着剤のニカワは元来、動物性の原料である。

問(24) 消音ピアノのハンマー接近（レットオフ）は、アップライトピアノでは生ピアノより、約 2mm 広く調整する。

問(25) 自動演奏のピアノで上前板や下前板がねじ止めされているピアノがある。

多肢択一（5択）問題

各問から、適切なものを1つ選びなさい。2つ以上選ぶと誤答になります。

問(26)　以下の速度に関する用語で、一番速いものを選べ。

1. Andante
2. Allegro
3. Moderato
4. Lento
5. Vivace

問(27)　以下の中から、正しいものを1つ選べ。

1. ピアノ協奏曲とはピアノ1台のみで演奏する楽曲である。
2. ピアノ2台を2人で演奏することをピアノ連弾という。
3. ピアノ四重奏曲は、通常は、ピアノ、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロの4つの楽器の編成による楽曲である。
4. ピアノの演奏で、ウナ・コルダとは左のペダルを半分踏むことである。
5. ピアノの演奏で、トレ・コルデとは左のペダルを一杯に踏み込むことである。

問(28)　音波の性質の記述として、正しくないものを1つ選べ。該当するものがなければ、5を選べ。

1. 音波が物体にあたると、反射・透過・吸収の現象を表す。
2. 音波は回折という性質により、障害物があっても、裏側に回り込む。
3. 音波の干渉という性質は、唸りに関係する。
4. 音波の共鳴には、同調共鳴と強制共鳴がある。
5. 1～4に該当なし。

問(29)　ピアノに関する事柄で一番時代が新しいものを選べ。

1. ベーゼンドルファー製造開始
2. エラールのレペティションアクション完成
3. ブロードウッドのペダル特許
4. チッカーリングの総鉄骨特許
5. ブリュートナーがライプチヒで製造開始

問(30)　木材を池に入れて保管する理由で、正しくないものを1つ選べ。

1. 木材の樹脂分を除く。
2. 木材を一定条件下に置いて安定させる。
3. 変色等の防止、防虫、防腐
4. 木材の含水率を調整するため。
5. 木材のひび割れを防止する。

問(31)　弦について、次の中から正しくないものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. アグラフにおける弦の屈折角度は、14°～17°である。
2. 低音弦に銅線を巻くのは、振動数を下げるためと、部分振動を防ぐためである。
3. 二重巻線では、内側に細い銅線、外側にそれより太い銅線を巻き付ける。
4. フルコンサートグランドピアノの最高音の有効弦長は、約 10 ㎝である。
5. 1～4に該当なし。

問(32)　鍵盤について、次の中から正しくないものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. 黒鍵の間隔は、C＃-D#間とF＃-G#間ではC＃-D#間の方が広い。
2. 白鍵のフロント部の幅は、22～23mm である。
3. 現代の標準的なピアノでは、鍵盤木部の形状が 88 本すべて異なる。
4. グランドピアノの鍵盤で、フロントピンからバランスピンまでの長さとバランスピンからキャプスタンスクリューまでの長さの比は、およそ 2:1 である。
5. 1～4に該当なし。

問(33)　音叉について、次の中から正しいものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. 音叉のピッチを高くするには、先端を削って調整する。
2. 完成した音叉は、ピッチは狂うことはないので、調整は不要である。
3. 音叉のピッチを低くするには、振動部を長くする必要があるため、調整は不可能である。
4. 音叉のピッチを高くするには、お湯につけて調整する。
5. 1～4に該当なし。

問(34)　音階・音程について、正しくないものを1つ選べ。

1. 純正調音階は、調律に用いる音程の唸りをゼロにする。
2. ピタゴラスの完全5度を割振の手順に従って12回繰り返すと、元の音とは24セントのずれが生じる。
3. ミーントーン（中間音整律）で C-E が純正の場合、C-D と D-E は同じセント数になる。
4. 平均律の短3度は、純正の短3度より、14セント広い。
5. シントニックコンマとは、純正調音階の大全音と小全音の差で、22セントである。

問(35)　ピアノの 37A と 41C#の関係で正しいものを 1 つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. 平均律の場合、調律に用いる共通倍音は 53C#付近である。
2. 平均律の場合、調律に用いる共通倍音は 65C#付近である。
3. 平均律の場合、調律に用いる唸りの回数は、秒間約7回である。
4. 平均律の場合、調律に用いる唸りの回数は、秒間約 10 回である。
5. 1～4に該当なし。

問(36)　ピアノを平均律で調律した場合、以下の中から正しくないものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. 44E から、オクターブで 56E を調律した場合、検査音程は 40C-44E と 40C-56E の唸りの比較が有効で、それぞれの唸りが同回数であれば、オクターブは正しい。
2. 34F#から、オクターブで 46F#を調律した場合、34F#-41C#の唸りと 41C#-46F#の唸りの比率が、2:1 の整数比の関係になれば、オクターブは正しい。
3. 最高音部の検査音程は、2オクターブ・3オクターブまたはオクターブ完全5度・2オクターブ完全5度などが有効である。
4. 低音オクターブ 33F-21F で、24G#-21F の唸りが,24G#-33F の唸りより少ない場合、21F の音は低い位置にある。
5. 1～4に該当なし。

問(37)　ピッチを半音引き上げて調律すると、張力はおよそ何％増すか、最も近いものを1つ選べ。

1. 6%
2. 12%
3. 18%
4. 24%
5. 変わらない

問(38)　ダンパーについて、正しくないものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. ダンパーが動き始める位置（掛かり）は、グランドピアノの場合、ハンマーが打弦距離(ハンマーストローク)のおよそ半分になるまで上昇した位置である。
2. アップライトピアノでは、スプーン掛けにより、ダンパー始動（掛かり）を調整する。その結果、ダンパーの上り量も変化する。
3. グランドピアノのダンパーの上り量については、ペダル突上げ棒の袋ナット(ペダル突上げ棒ヘッド)の上下で調整する。
4. ダンパーペダルの遊び調整は、グランドピアノの場合、ペダル突上げ棒の袋ナット（ペダル突上げ棒ヘッド）の上下で調整する。
5. 1～4に該当なし。

問(39)　タッチについて、正しくないものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. 同音連打の性能は、演奏の際のp(ピアノ)とf(フォルテ)で差が生じる。
2. ハンマーストップ（バックストップ）が広いと、2度打ちすることがある。
3. グランドピアノの同音連打の性能は、アップライトピアノの約2倍である。
4. アップライトピアノで、キャプスタンボタンの位置を奥に調整すると、タッチが重めになる。
5. 1～4に該当なし

問(40)　グランドピアノで連打がしにくい場合の原因として、考えられないものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. レットオフ（ハンマー接近）が広すぎる。
2. ドロップ（ハンマー戻り）が大きすぎる。
3. ジャックが高すぎる。
4. ジャックが手前すぎる。
5. 1～4に該当なし。

問(41)　アップライトピアノ整調について、正しくないものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. 鍵盤あがきが深いと、ジャックとジャックストップレールの隙間が少なくなる。
2. 上記1. でジャックとジャックストップレールに隙間が無くなると、2度打ちの原因となる。
3. 働きに関する工程は、打弦距離（ハンマーストローク）・ハンマー接近（レットオフ）・鍵盤あがき・から直し（ロストモーション）などがある。
4. 連打性能に問題がある場合は、スティックやハンマーストップ（バックストップ）と共に上記3. の確認をするとよい。
5. 1～4に該当なし。

問(42)　グランドピアノ整調について正しくないものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. ハンマー接近(レットオフ)を広くすると、働きは大きくなる。
2. ハンマー戻り(ドロップ)を小さくしても、働きは変わらない。
3. 打弦距離（ハンマーストローク）を広くすると、働きは小さくなる。
4. 鍵盤あがきを深くすると、働きは大きくなる。
5. 1～4に該当なし。

問(43)　整音の作業として適切でないものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. 針刺しは、ハンマーの頂点を避けて、放射状に入れる。
2. 鋭い音が残る場合には、頂点近くまで針入れを行っても良い。
3. 極端に鳴らなくなった場合、硬化剤をハンマーに塗る場合がある。
4. アップライトでの針刺しは、ハンマーを 1 鍵ずつ取り外して行う。
5. 1～4に該当なし

問(44)　ハンマー整形（ファイリング）の作業として適切でないものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. ペーパーは、板に貼って使用すると良い。
2. 使用によりハンマーの弦跡が大きくなった場合は、ペーパーを掛ける。
3. 針刺しとペーパーかけは、音色改善のための作業である。
4. シューシャインと呼ばれる方法は、主に高音側で使うハンマー整形法である。
5. 1～4に該当なし。

問(45)　次の記述で、適切でないものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. 巻線ジンの場合、銅線を締める方向にねじって張り直すと改善されることがある。
2. 断線が多発する場合、弦の番手を上げると断線頻度が減る。
3. 張弦で行う三ツ割は、グランドピアノとアップライトピアノで弦間隔が異なる。
4. 弦の巻数は、ピアノごと、音域ごとに異なることがある。
5. 1～4に該当なし。

問(46)　修理の接着に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. グランドピアノのバックチェックスキン交換では、隙間ができないように全面を接着する。
2. グランドピアノのキーバックレールクロスの交換は、奥側のみを接着する。
3. アップライトピアノのバットフェルトは、上部1/2～1/3を接着する。
4. アップライトピアノのダンパーレバークロスは、全体を接着する。
5. 1～4に該当なし。

問(47)　GP のハンマーシャンクフレンジセンターピン交換修理について、正しいものを1つ選べ。

1. フレンジが3～6gの負荷でゆっくり下がるのが良い。
2. フレンジが自重で下がるのが良い。
3. 木部との嵌合は、木部のフレンジ接触面を削って直す。
4. センターピンのカットはフレンジ側面より、奥に入っているのが良い。
5. クロスの片減りは、センターピンをクロス幅の半分程度抜いて再度打ち込んで直す。

問(48)　次の記述で、正しいものを1つ選べ。

1. ハンマー交換を行う場合、純正部品を使用することで、鍵盤鉛の調整が省略できる。
2. チューニングピンのトルクが低くなった場合の修理方法として、太ピンに替える方法がある。
3. グランドピアノのハンマーシャンク交換は、事前にシャンクの長さを確認し適切な寸法に調整しておく。
4. アップライトピアノのハンマー交換時にキャッチャーの高さを調整するには、ハンマーシャンクプライヤー(コテ)を使用する。
5. アップライトピアノで全弦交換の際、プレッシャーバーは高さが変わらないよう取り付けたままで全ての弦を除去しなければならない。

問(49)　ペダル交換で、必ず行わなければならない作業を1つ選べ。

1. アップライトピアノの場合、底板を外す。
2. アップライトピアノの場合、前土台を外す。
3. アップライトピアノの場合、天秤を外す。
4. グランドピアノの場合、アクションを引き出す。
5. グランドピアノの場合、ペダル箱の底板を外す。

問(50)　消音型ピアノや自動演奏ピアノの点検・調整・構造の記述として適切でないものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. 電装系の不良の場合でも、弱電の機器は電源プラグを抜かなくても良い。
2. 自ら修理できない場合は、専門技術を持った技術者に修理依頼を行う。
3. 消音ピアノで消音演奏時の発音に不具合が認められる場合でも、アコースティックの整調に起因することがある。
4. アコースティックの整調や修理を行った場合は、電装系の点検をする。
5. 1～4に該当なし。